

令和7年度

事業名 公民館事業活性化研修会	
期 日 令和7年9月17日(水)	
参加者 48名	
趣 旨 公民館が地域コミュニティの基盤形成に寄与するため、公民館の機能の一つである「学び」を通じた人づくり・地域づくりの実践や理論に学び、今後の事業づくりの充実につなげる。	
活動の様子	
【説明】「本研修の趣旨について」	
社会教育総合センター調査・研修班社会教育主事 柴尾 裕夢	
	第4期教育振興基本計画に「学びを通じた人づくり・つながりづくり・地域づくり」が明示されていることから、公民館の機能の1つである「学び」にスポットを当て、公民館等の社会教育施設に求められている役割について説明しました。 参加者からは、「公民館事業は、社会の情勢を捉えた上で考えないといけない」「学びをどう生かすかを学習していきたい」などの感想が寄せられました。
【研修1】〈事例発表〉「共創社会の実現をめざすキクロスカレッジ構想 ～人づくり、つながりづくり、地域づくりの循環の創出～」	
熊本県菊池市生涯学習センターセンター長 吉川 良二 氏	
	地域課題の解決に向けた住民主体の地域づくりを実現させるために、公民館が核となって「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を行っている実践を発表していただきました。「生涯学習基本計画の策定」と「全庁体制で推進する環境整備」の2つの柱を軸に、それらを確実に推進していくための「キクロスカレッジ構想」を立て実践された結果、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生まれ、住民主体の地域づくりへと導くことができた実践でした。 参加者からは、「人材育成について素晴らしい過程を学ぶことができた」「持続可能なシステムでとても参考になった」「若者に対象を絞ったり、人材育成をしたりする事業を取り入れたい」などの感想が寄せられ、具体的な実践から参加者自身の市町村で生かすことができそうなヒントを得ていただくことができました。

【研修2】〈講話〉「ともに学び支え合う公民館」

愛媛県新居浜市生涯学習センター所長 関 福生 氏



公民館が「人づくり・地域づくり」に資する重要な役割を担っていることを再認識するために、公民館に求められている役割及びその機能に関する理論について講話をしていただきました。公民館の歴史、社会教育の不易と流行、これからの社会教育が大切にしたいこと等について御自身の思いを交えながらお話いただき、これからの時代の公民館が目指したい姿として、公民館は、みんなでウェルビーイングを実現する「幸民館」であることを参加者の皆さんに伝えていただきました。

参加者からは、「『楽しさ』ではなく『愉しさ』を理解できた」「今からの時代に求められる学びについて改めて考えていきたい」「『幸民館』を目指していきたい」などの感想が寄せられ、公民館の役割について学び直すとともに、これからの公民館の方向性について考えるきっかけとなりました。

【研修3】〈演習〉「語ってつくろう！『学び』の事業」

社会教育総合センター調査・研修班社会教育主事 柴尾 裕夢



公民館の役割を明確にするとともに、今後の公民館事業のヒントをつかむために「『学び』を通じた人づくり・地域づくり」をテーマにした演習を行いました。グループで理想の住民像や地域像、活用できる地域資源、理想の住民像を実現させるための地域資源を活用した事業について話し合いました。

参加者からは、「色々な話の中でアイデアや考え方をもらい参考になった」「情報交換で『やってみよう』というやる気が喚起できた」などの感想が寄せられ、今後の公民館事業のヒントをつかむことができました。

参加者の声

- ・「つどう、つなげる、つづける、まちづくり」素晴らしい実践でした。キクロスカレッジの考え方を公民館講座に取り入れたいと思いました。
- ・行政の横串を通した施策と言われていたのが、大変興味深かったです。
- ・「今の生涯学習に忘れられているのは『哲学』」という言葉が響きました。公民館とはどういう施設なのか見つめ直し、自分の言葉で語れるようになりたいです。
- ・最後にアウトプットできる話し合いがあったので良かったです。
- ・ゆっくり話す時間があつたので、一つのことにに対して色々な方向から意見が出て、とても参考になりました。